

大和の鬼退治

節分の3日、県内各地で伝統ののっとった鬼追い式や豆まきがあった。



●金峯山寺

吉野町吉野山の金峯山寺蔵王堂では、修験道の開祖、役行者が鬼を改心させて弟子にしたという故事にちなむ「鬼の調伏式」があった。

赤・黒・青の計6匹の鬼は傍若無人に読経をする僧や修験者にいたずらをして、^{えんのかまじ}「鬼踊り」をしたり。修験者らが「福は内、鬼も内」と豆を投げつけると、畳の上にひれ伏して改心した。

●大安寺

奈良市の大安寺では、福豆まきがあ



奥田龍王さん(左)が奉納した赤鬼、青鬼のお面

り、新しい面をつけた赤鬼、青鬼が登場。河野良文貫主から豆を投げられ「改心」すると、その後は参拝者との記念撮影に応じていた。

面は、奈良市の能面作家奥田龍王さん(63)がヒノキを使って1年がかりで制作。獅子や天狗などの能面を参考に「おおらかでユーモラス」に仕上げた。

奥田さんは「これから何十年も使ってもらえると思うと大変光栄」、河野貫主は「来年以降、お面に合う装束も考えたい」と話した。

●興福寺

奈良市の興福寺では、赤鬼、青鬼を毘沙門天が退治する「鬼追い式」があった。

病気平癒を願う「追儺会」の法要が営まれた後、午後7時ごろから東金堂前で毘沙門天と鬼が戦いを繰り広げた。



毘沙門天(左)が鬼を退治すると参拝者から歓声があがった

炎を祈る災息



●春日大社

奈良市の春日大社では、家内安全や無病息災を願う「節分万灯籠」があった。岡本彰夫権宮司が本殿前の灯籠に点火。回廊につり下げられた約1千基

の釣灯籠と参道脇の約2千基の石灯籠にも次々に明かりがともった。

●元興寺

奈良市の元興寺では、柴燈護摩供や火渡り、豆まきがあった。本堂前に設けた護摩壇に参拝者らの願い事が記された護摩木が次々にくべられた。壇を崩し、炭火の上に焼けた十数本の丸太を渡して火渡りの場がつけられた。境内にいる全員で東日本大震災の犠牲者に黙禱した後、参拝者が1人ずつ丸太の上を歩き、無病息災などを祈った。

